



上手前高齢者クラブ（薩摩川内市）

発表者：大 山 勝 氏

こんにちは。ただ今ご紹介をいただきました薩摩川内市祁答院町上手前高齢者クラブの大
山 勝と申します。

本日は、このような大きな賞をいただき、また、発表の機会を与えてくださり、深く感謝
申し上げます。

1 はじめに

私たちの活動拠点は、薩摩川内市の一番東側に位置し、近くにはラムサール条約に指定
されている藺牟田池があり、具体的には祁答院ゴルフ場の裏側で上手地区前方限（滝間、
中武自治会）89世帯166人の小さなクラブです。米作りと畜産が盛んな所です。地域の
上手小学校は、全児童33人で廃校合併が取りざたされています。

当クラブのメンバーは全体で75人（男25女50）であり、年代別にみると、65～69歳
14人（男8女6）、70代22人（男5女17）、80歳以上39人（男12女27）、平均81.5歳と
まさに高齢者クラブです。

65歳以上の高齢化率は、滝間が56.7%で4年連続のゴールド集落、いわゆる限界集落
といわれています。中武は43.6%ですが、両地区合わせても52.4%となっています。し
かしながら、ゴールド集落とは思えない程元気な高齢者の集落です。

そのような事情から、単老としての活動はもとより、上手地区高齢者クラブ連合会（以
下上高連）など3クラブの共同企画に重点をおいた活動となっています。

暑いので、上着を脱がせていただきますが、実は私が着用しているこのシャツは、私ど
も連合会のユニホームです。うちのメンバーも同様に着て応援に来ています。

上手前高齢者クラブの概要でございますが、昭和49年4月に発足し、平成20年3月解
散、苦い体験をして平成23年4月に復活し6年目になります。

薩摩川内市高齢者クラブ連合会が毎年発行している「流れ雲」という文集がありますが、
平成23年版31号に「高齢者クラブ復活ストーリー」のタイトルで投稿したのがきっかけ
で、平成24年9月のゆめ・ときめき鹿児島大会において仲間づくり部門で団体賞、翌25

年9月には全国老人クラブ連合会からやはり仲間づくり部門の2013活動賞をいただき、大きな励みとなっています。

具体的な活動について発表します。

2 健康づくり

健康づくりについてでございます。

単位クラブとして月1回、滝間自治公民館グラウンドにおいてグラウンドゴルフの練習をしています。上高連、市高連、コミセン、その他団体主催の大会にも積極的に参加しており、昨年ゲートボール大会での優勝、一昨年は祁答院地域福祉合同スポーツ大会で優勝しています。



3 ふれあい交流

ふれあい交流についてでございます。

まず、サロン（おごじょ会…女性会員）活動についてです。

毎月1回（6、10月は休み）茶話会形式（会費1回200円）で開催しているひな祭りや花見、七夕祭、クリスマス会のほか、時には講師を招いての健康体操はじめ、多種多様な活動で盛り上がります。今年は消防署やNHKの見学も行いました。



今年の敬老会は男性会員も加わり、楽しい1日でした。これもひとえにおごじょ会様々で、女子会の存在が地域の活動やクラブの活動を盛り上げています。女性パワーのすごさを痛感しています。

次に、温泉ツアーについてです。

なかでも会員の一番の楽しみは、日帰り温泉ツアーです。7月と12月の年2回、上手地区の3つの単老合同で毎年行っています。参加料3,500円ですが、各単老から10～20人、全体で50～60人が参加して、毎回カラオケや手踊りなどで盛り上がり、上高連の団結につながっています。



なお、今年は、11月30日に出水の鶴を見物して、近くの温泉場で食事会を計画しています。

次に、世代間交流についてです。

上手小農園の田植え・稲刈りの指導をはじめ、運動会など児童とのふれあい活動や、夏祭り、秋祭りへの参加など地域の担い手として高く評価されています。

4 社会奉仕作業

社会奉仕作業についてでございます。

まず、環境美化作業についてです。

老人花壇の花植えを年2～3回行い、地域の環境美化にも勤めています。

自治公民館グラウンドなどの除草、年2～3回の地域の神社境内の清掃等にも多くの会員が参加し、秋祭りに備えます。



次に、独居老人訪問についてです。

各種行事の案内を活動に参加できない会員に対して、役員が訪問し情報を届けたり、話し相手になったりして、健康チェックなどのコミュニケーション活動を行っています。

5 文化財保護活動

文化財保護活動についてでございます。

地区内の文化財、滝間城跡（滝間石塔群）の周辺環境整備、広報、伝承活動にも取り組んでいます。

特に平成27年度特別活動として、滝間城跡までの連絡道（約150m）を誰でも容易に



辿り着けるように道作りをしました。文献を調べてみると、城というのは卑弥呼の時代からあって、熊本城や姫路城のように石垣や櫓があるものは千五百年～千六百年頃の時代で、その以前は山城で急傾斜地や自然の要塞になっている所に城を構えていたようです。

地区の文化遺産である滝間城跡の環境整備（除草など）は、これまで私たちが取り組んできましたが、目的地に辿り着くのが一苦労、道路としての形状はなく、急傾斜地で極めて元気な人しか行けない状況でした。その都度、「この道、いけんかならんとけー、いけんかせないかないねー」と誰もが口にしていました。

4月から県の地域貢献活動サポート事業が始まることを知り、役員会で検討を行い、応募した結果、50万円が貰えることとなりました。その資金をもとに建設会社と若手会員が中心となって共同作業で階段などを設置し、子供でも、女性でも、老人でも、誰でも安全に行けるよう道作りを行いました。



左下写真の手前は上高連会長の青木さんですが、先日、水俣の病院に行ったとき、先生



が見たことがあるが、道作りの写真の人ではないですかと言われたとのこと。先生が南日本新聞に掲載されていた写真を覚えておられたそうです。できれば、皆様方にも是非滝間城跡に来ていただければ有難いと思

います。

また、山紫水明の地、ベッコウトンボの生息する藺牟田池は盆地のような地形になっているので、8月の花火大会は、他の海岸でやっている花火大会と違い、音が3～4倍は大きく、見ごたえがあります。来年8月には是非お越しいただければ有難いです。また、滝間城跡にも是非訪れてください。

つたない発表となりましたが、ご清聴ありがとうございました。